原始の夢から
伊達文化へ

宮城県誕生
150周年記念企画

みやぎの時代絵巻

History of MIYAGI

古代から近代まで—
みやぎに息づく歴史の奥深さを発見。

近世を経て、
仙台藩から宮城県への変遷は
近代化を急加速。
交通網の整備と
国内外の交流によって
東北の拠点として
洗練されていきました。
グローバル化と
デジタル化への振興、
東日本大震災からの
完全な復興は
未来へとつながっていきます。

「みやぎのはじまり」を紐解く
旧石器時代、縄文・弥生の遺構。
そして原始から古代へ。
国府多賀城の創建、天平の産金、
奥州藤原氏へつながる
みちのくGOLD浪漫。
戦国の世に誕生した伊達政宗が
大きく影響を与えた文化や美意識。
歴史が遺した多くのものが
みやぎの風土に
奥深く生きています。

明治維新の廃藩置県を経て、現在の「宮城県」が誕生して150年。海・山・川・平野が調和した自然環境の下、県民とともに様々な歴史を刻み、豊かな文化と暮らしを育み、現代へと発展して来ました。
その道程は決して平坦なものではなく、明治三陸地震津波や仙台空襲、宮城県沖地震、東日本大震災など、数々の大きな災害や苦難を乗り越えて今日に至っています。150周年を迎えた今だから見えてくる、先人たちが遺して来た『みやぎの歴史』をあらためて振り返り、その魅力を再発見してみましょう。

明治の近代化を経て東北の拠点としての変遷

時代とともに県民の暮らしに寄り添って宮城県誕生150周年

みやぎ150周年記念ロゴマークは、
次代を担う県内高校生等を対象とし公募。
宮城県古川工業高等学校 3年生
佐々木七海さんの作品が採用されました。

宮城県は明治5年(1872年)2月16日、旧仙台藩を中心とした「仙台県」から改称する形で成立し、令和4年(2022年)2月に150周年の節目を迎えました。

150周年を記念し、県民一人ひとりが先人や自らが積み重ねてきた努力と歴史を振り返ることで、郷土への更なる愛着を醸成するとともに、地域の魅力を再発見し、宮城の特色を内外に発信しながら、一層の誘客促進と地域活性化への契機としていくため「県制150周年記念事業」を実施しています。

旧石器時代～縄文時代～弥生時代

B.C.18000 ⟶ A.D.300

約20000年前 旧石器時代	富沢遺跡（仙台市）で旧石器時代に生きた人達の活動跡と森林跡が発掘、氷河期の植生がわかる
約15000年前 縄文時代	土器が使われ、狩猟・植物採取の他に海岸部では貝の採集や漁労も行われ、釣り針や銛（もり）などの道具も作られる→県内多数の貝塚にその痕跡が残る
	氷河期から気温が上昇し、針葉樹から落葉樹へと植生が変化
約4000年前	山田上ノ台遺跡（仙台市）大規模な集落跡
約3000年前	恵比須田遺跡（大崎市田尻）に遮光器土偶
約2400年前 弥生時代	東北地方にも稲作が伝わる
	富沢遺跡（仙台市）水田跡
	山王遺跡（多賀城市）水田跡
	桝形囲貝塚（多賀城市）稲籾の痕跡がある土器

遥か何万年も前の“みやぎ”がどのようにできて、人々がどのように暮らしていたのか―考古学や地質学など様々な側面から学術的に調査を重ねた結果、宮城には世界的にも貴重な遺構が残っていることがわかりました。殊に仙台市の地下鉄建設に伴う試掘調査で発見された「富沢遺跡」は旧石器時代から弥生時代の人々の生活がわかる遺物が数多く発掘されました。氷河期の森の跡と当時の生活跡が発掘されたままに見られるのは世界でもここだけ。みやぎに眠る原始ロマンの旅に出てみましょう。

みやぎだけで出会える原始ロマンがある。

縄文時代の復元住居と当時の文化を体感できる

仙台市縄文の森広場 仙台市

「山田上ノ台遺跡」で発見された約4000年前の縄文時代の集落跡を保存・活用するために作られた施設です。竪穴住居を3軒復元、木の実などの貯蔵穴や動物を獲る落とし穴、土器をつくるための粘土を掘った場所や土器を焼いた場所なども表示、縄文時代のムラの様子を再現しています。また広場では縄文人が作っていた作物を栽培する縄文畑、体験活動を兼ねた発掘調査を行う場として利用しています。

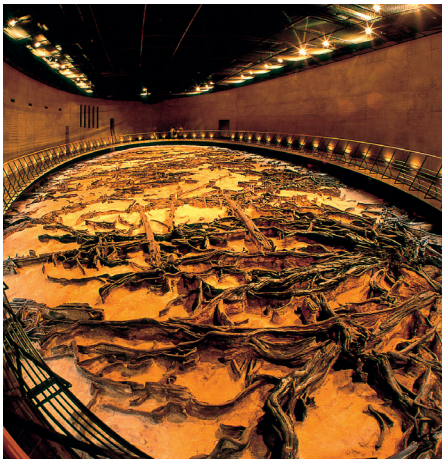
◆詳しくは／P065　仙台・松島エリアへ

2万年前の氷河期の世界がよみがえる

地底の森ミュージアム 仙台市

発掘された旧石器時代の富沢遺跡を大地から切り離さずに、そのまま保存・展示しているミュージアム。2万年前のたき火の跡、樹木やシカのフンの化石など貴重な資料が見られます。絶滅したマツ「トミザワトウヒ」の樹根は一見の価値あり！ 野外には、氷河期の植生を再現した展示「氷河期の森」もあります。

◆詳しくは／P065　仙台・松島エリアへ



出土品から縄文人の暮らしが見えて来る

奥松島縄文村歴史資料館 東松島市

日本最大級の「里浜貝塚」から出土した縄文土器や骨角器、石器、装身具、食料である魚や獣の骨などを展示し、縄文人の知恵と生活を「みて」「ふれて」「たのしめる」資料館です。約2500年前の本物の貝塚を剥ぎ取った展示や、木舟の上からマグロをねらう縄文人の立体模型は迫力満点!映像シアターでは、キャラクターのげんちゃん一家が縄文ワールドへ誘います。

◆詳しくは／P088　仙台・松島エリアへ

4000年に渡って暮らしていた縄文人と海。

宮城県には多数の貝塚がありますが、このうち松島湾沿岸には約70か所もの縄文時代の貝塚が集中し、縄文マニアからも注目されています。東松島市にある「宮戸島」には里浜貝塚を中心とした『さとはま縄文の里 史跡公園』があり、縄文人が見たままの伸びやかな海が広がっています。遥か昔、魚を捕り、貝を拾い、塩をつくり、木の実を採集する縄文の人々の姿に思いを馳せてみては？

松島湾内・宮戸島にある「縄文漁(すなど)りのムラ」

[国史跡] 里浜貝塚 東松島市

里浜貝塚は、縄文時代前期(約6800年前)から弥生時代中期にかけての集落跡で、日本最大級の規模(東西約640m、南北約200m)を持ちます。おもに3つの貝塚群で構成され、縄文人は数百年～千年単位でムラの場所を移動しながら生活していたと考えられています。保存状態の良好な貝塚から多数の縄文人骨や骨角器などが出土し、貴重な情報を提供する遺跡として、平成7年国史跡に指定されました。

奈良～平安時代～鎌倉時代

710 ⟶ 1333

7世紀後半、中央集権の体制が進みましたが東北地方北部は律令国家の支配が及ばない地でした。宮城県は『陸奥国』と呼ばれる地域の一部で、8世紀に入り、勢力拡大の拠点として置かれたのが多賀城。11世紀中頃まで古代東北の政治・軍事の中心地となり、多彩な文化も生まれました。

奈良・平安時代の「陸奥国（むつのくに）」にタイムスリップ。

陸奥国の国府が置かれた日本三大史跡の1つ

多賀城跡 多賀城市

「多賀城（たがじょう）」は奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれたところで、平城宮跡（奈良県）や大宰府跡（福岡県）とともに日本三大史跡の1つです。奈良時代には軍事を司る『鎮守府』も置かれ、11世紀の中頃まで古代東北の重要な拠点でした。約900m四方の規模で、周囲は築地塀で囲まれ、中央には重要な政務や儀式を行う「政庁」があり、4つの時期に渡って改修や再建があったことがわかっています。当時の律令国家が辿って来た歴史を感じられる重要なスポットです。

◆詳しくは／P087　仙台・松島エリアへ

古代東北の解明に欠かせない多賀城修造記念碑

多賀城碑 多賀城市

歌枕「壺碑（つぼのいしぶみ）」としても名高く、762年に建立された「多賀城修造記念碑」で、平城京などから多賀城までの距離や多賀城の創建、修造について刻まれています。江戸時代の初め、この碑が発見されたことにより遺跡が「多賀城跡」であることが判明しました。古代東北の解明につながる重要な資料として平成10年、国の重要文化財に指定されました。

奈良時代	
710年（和銅3年）	平城京遷都
724年（神亀元年）	大野東人が多賀城を築く（多賀城碑による）
737年（天平9年）	大野東人、陸奥国と出羽柵との連絡路を開こうとする
741年（天平13年）	聖武天皇「国分寺・国分尼寺建立の詔」を発令
749年（天平21年）	陸奥守百済王敬福、小田郡（宮城県涌谷町）で産出した『金』を献上
759年（天平宝字3年）	桃生城（宮城県石巻市）・雄勝城（秋田県）完成
762年（天平宝字6年）	藤原朝獦が多賀城を修造する　「多賀城碑」建立
764年（天平宝字8年）	藤原仲麻呂の乱
780年（宝亀11年）	伊治公呰麻呂の乱　多賀城炎上する
782年（延暦元年）	大伴家持、陸奥按察使・鎮守将軍となる
784年（延暦3年）	長岡京遷都
平安時代	
794年（延暦13年）	平安京遷都
797年（延暦16年）	坂上田村麻呂、桓武天皇より征夷大将軍に任ぜられる
802年（延暦21年）	坂上田村麻呂、胆沢城（岩手県奥州市）を築城 多賀城から鎮守府を移す
869年（貞観11年）	陸奥国大地震発生、多賀城の城下まで津波が押し寄せる
1051年（永承6年）	源頼義、陸奥守となる　前九年の役はじまる
1083年（永保3年）	源義家、陸奥守となる　後三年の役はじまる
1170年（嘉応2年）	藤原秀衡、鎮守府将軍となる
1189年（文治5年）	奥州合戦により奥州藤原氏滅亡　源頼朝、鎌倉への帰途、多賀国府に立ち寄る
1190年（建久元年）	伊沢家景、陸奥国留守職となる
鎌倉時代	
1333年（元弘3・正慶2）	陸奥守北畠顕家、義良親王を伴い多賀国府に向かう

全国で2番目の史跡公園として整備された多賀城の付属寺院跡

多賀城廃寺跡 多賀城市

多賀城と同時期に創建された多賀城の付属寺院跡。東に三重塔、西に東面する金堂、北に講堂を配置し、築地塀が囲んでいます。2kmほど西の山王遺跡で「観音寺」と墨書された土器が発掘され、寺名の可能性が高いと考えられています。多量の瓦の他に、陶塔や泥塔、土製の仏像の破片など、寺院跡ならではの遺物も発見されています。

芭蕉も訪れた松島・雄島（おしま）の南端にある古碑

頼賢碑（らいけん） 松島町

松島湾に浮かぶ『雄島』は岩窟群と松に覆われた小さな島で、古来より諸国から集まった僧が修行に励む霊場でした。島の南端にある六角形の鞘堂に納まっているのが、国の重要文化財である「頼賢碑」。頼賢は22年間一歩も島を出ずに修行を続けたとされ、過去に同じく雄島で長年に渡って修行を重ねた高徳の僧・見仏上人の再来とも称されました。この碑は頼賢の徳行を伝えるため、徳治2年に弟子30余人によって建立。奥州三古碑のひとつと言われます。

※2022年4月に改修工事完了予定。工事完了後は棚がなくなるなど若干見栄えが変わります。

平安時代1177年に建立宮城県最古の木造建築

勝楽山 高蔵寺（こうぞうじ） 阿弥陀堂 角田市

阿武隈川の下流、角田市の西方に位置する高蔵寺。数百年を経た古木に包まれるように鎮座する「阿弥陀堂」は平安時代の1177年（治承元年）建立と伝えられ、宮城県最古の木造建築です。本尊の阿弥陀如来座像は、寄木造に漆箔を施した像高約2.7mの大きさで、背後の飛雲光背を合わせると全高5mを超える巨像です。鎮守府将軍の藤原秀衡と妻が造らせたと伝えられています。平安時代の姿を遺す貴重な文化遺産です。

◆詳しくは／P115　県南エリアへ

東北鎮護・陸奥国一之宮として朝廷から庶民までの崇敬を集める

鹽竈神社 塩竈市

正確な年代は不明ですが、鹽竈神社は奈良時代以前に創建されたと考えられています。平安時代初期に書かれた「弘仁式」には「鹽竈神を祭る料壱万束」とあり、多賀城から見て東北の方角に位置する鬼門を守る意味でも、陸奥国の『総鎮守』として多くの人々に信仰されて来ました。現在の社殿は仙台藩第四代藩主・伊達綱村公から第五代の吉村公に渡り9年の歳月を掛け1704年に建立されたものです。境内は国指定重要文化財の社殿に加え、古くから歌に詠まれた国の天然記念物「鹽竈桜」も見どころになっています。

◆詳しくは／P086　仙台・松島エリアへ

宮城県誕生
150周年記念企画
みやぎの時代絵巻
History of MIYAGI

今から1200年以上も前の奈良時代、陸奥国で初めて「金」が産出されました。当時の聖武天皇は東大寺大仏の造立にこの「金」を使い完成へと導きました。現在の宮城・岩手を含む「みちのく」とも呼ばれる地は、産金によって様々な文化や信仰、産業や交流が発展し、時の権力や栄華にも深く関わってきました。みやぎの歴史に刻まれて来た“みちのくGOLD浪漫”は、脈々とこの地に息づいています。

［日本遺産 PART 1］

みちのくGOLD浪漫

日本で最初に発見された金の聖地

［国史跡］黄金山産金遺跡（こがねやまさんきんいせき） 涌谷町

涌谷町（わくやちょう）中央部の「黄金山神社」境内にある産金に関連した遺跡。奈良時代の瓦とともに数個の礎石跡が確認され、産金を記念した六角堂と思われる仏堂が建てられていたことが判明。『天平』とヘラ描きのある宝珠片・丸瓦片も採集されています。この発掘などにより神社近辺一帯が陸奥国小田郡であり、「天平の産金地」として歴史的意義が深いと、昭和42年に国史跡に指定されました。

◆詳しくは／P143　県北エリアへ

万葉歌碑

黄金山産金遺跡（こがねやまさんきんいせき）

黄金の国ジパング、
産金はじまりの地をたどる

涌谷町（わくやちょう）の「金の歴史」を学び砂金採り体験も

わくや万葉の里「天平ろまん館」 涌谷町

わくや万葉の里は、黄金山産金遺跡を中心に、史跡ゾーン・遺跡広場・天平ろまん館で構成されています。天平ろまん館では「天平産金の地」の歴史を学び、砂金採りの体験もできます。大仏造立や鍍金（ときん）など、当時の技術を映像や模型を交えて紹介。平山郁夫画伯による「東大寺大仏開眼供養記図」（陶版画）から大仏開眼供養の様子が伺えます。“みちのくGOLD浪漫”のはじまりを感じることができます。

◆詳しくは／P143　県北エリアへ

日本遺産とは―

地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するものです。宮城県涌谷町・気仙沼市・南三陸町、岩手県陸前高田市・平泉町の2市3町が「みちのくGOLD浪漫―黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる―」を申請し、令和元年5月20日に認定を果たしました。5自治体が手を携えて、それぞれの遺産を活用し、交流人口を拡大させるとともに、次代の担い手育成や産業の発展、そして東日本大震災からの完全なる復興に向けて邁進しています。

JAPAN HERITAGE
日本遺産

奥州藤原氏と深いゆかりの貴重な遺構

山頂に平安時代末期の経塚群がある修験の山

田束山経塚群（たつがねさんきょうづかぐん） 南三陸町

田束山（標高512m）の山頂にある経塚（お経を埋めた塚）群。ここは修験の山として知られ、12世紀に“黄金文化”を花開かせた岩手県平泉の藤原秀衡はこの山を篤く信仰。3つの寺や70を越える僧坊を作り、山頂の11基の経塚からは青銅製の経筒と経巻（法華経）が発見されました。5月にはツツジの花で真っ赤に染まる霊峰です。

◆詳しくは／P130　三陸エリアへ

”モンスターゴールド“からはじまった

明治から昭和にかけて金山として栄える

大谷鉱山跡 気仙沼市

気仙沼市・大谷地区にある大谷鉱山。明治37（1904）年、同じく気仙沼の鹿折金山で重さ約2.25キロのモンスターゴールドが産出された影響で、大谷鉱山でも翌年から採掘が開始されました。最盛期の昭和10年代には年間約1tもの“金”を産出。山腹にそびえるコンクリート造りの巨大な精錬所跡は、当時の繁栄ぶりを偲ばせます。昭和51（1976）年の廃鉱とともに産金の歴史は終わりを告げました。

産金の歴史と当時の繁栄がわかる

大谷鉱山歴史資料館 気仙沼市

大谷鉱山操業時、実際に使われていた削岩機やトロッコ、産出された金鉱石のほか、従業員の生活を写した写真など、計450点の収蔵品が展示されています。

◆詳しくは／P131　三陸エリアへ

宮城県誕生
150周年記念企画
みやぎの時代絵巻
History of MIYAGI

［日本遺産PART2］

初代仙台藩主“独眼竜”伊達政宗。戦国時代の真っただ中に誕生し、18歳で家督を継いで以降、数々の武功によって奥州の覇者となっていきます。慶長5年の関ケ原の戦いでは、勝利を収めた徳川軍に加勢。翌年から仙台城の建設を開始し、仙台藩発展のため治水工事や植林、城下町の整備に邁進しました。また、政治や軍事面だけでなく『文化人』としても時代を牽引した政宗。奈良時代の陸奥国分寺跡に薬師堂を建てたり、松島の名刹円福寺を瑞巌寺として復興したり、地元の名所・旧跡の再生に力を入れました。当代一の技術者を呼び寄せ、上方の桃山文化を取り入れたり、西洋世界にも関心を寄せました。伝統の中にも個性的で新しい“伊達”な文化を開花させた功績は、歴代の藩主に受け継がれ、やがて庶民にも広がり、今でも県内の様々な遺構に息づいています。

政宗が育んだ伊達な文化

青葉山と広瀬川の地形を生かした『天然の要塞』

仙台城跡（青葉城址） 仙台市

伊達政宗が1601年（慶長6年）に築城した仙台城（青葉城）。伊達62万石を治めた政宗の居城であり、廃藩置県までの約270年に渡り仙台藩の政庁でもありました。明治のはじめに本丸が取り壊され、二の丸も明治15年に火災で焼失、現在は石垣と再建された大手門脇櫓が残されています。また東日本大震災により複数の石垣が崩れましたが、平成27年に復旧工事が完了しています。本丸跡の「政宗公騎馬像」の傍らからは仙台市街を一望でき、政宗が見たであろう風景を眼下に偲ぶことができます。

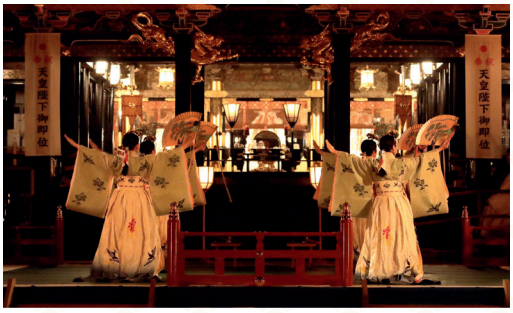
◆詳しくは／P054　仙台・松島エリアへ

安土・桃山時代の流麗な美意識が広がる「権現造」

国宝 大崎八幡宮 仙台市

平安時代の坂上田村麻呂、また室町時代の奥州管領大崎氏にゆかりのある大崎八幡宮を、伊達政宗が居城の岩出山城内に御神体を遷し、後の1607年（慶長12年）、仙台城の北西にあたる現在の地に創建。社殿の造営には、当時豊臣家に仕えていた当代随一の工匠が招聘され、桃山様式の総漆塗、極彩色の豪華な装飾が施されています。2004年、約5年に渡る社殿の保存修理工事を終え、創建当時の絢爛な姿が甦りました。

◆詳しくは／P056　仙台・松島エリアへ



文化人政宗が遺した桃山文化の美しさ

桃山文化の遺風を伝える伊達政宗公の霊廟

瑞鳳殿 仙台市

1636年(寛永13年)、70歳で生涯を閉じた伊達政宗公の遺命により、翌年に造営された霊屋(おたまや)です。本殿、拝殿、涅槃門からなり、桃山文化の遺風を伝える豪華絢爛な廟建築で、1931年に国宝に指定されるも戦災によって焼失。現在の建物は1979年に再建されたものです。2001年に仙台開府四百年を記念して大改修工事を実施、柱には華やかな飾り彫刻の「獅子頭」を、屋根には「竜頭瓦」が復元されました。

◆詳しくは／P054　仙台・松島エリアへ

安土・桃山時代	
1567年(永禄10年)	伊達政宗、米沢城(山形県)で生誕、梵天丸と名付けられる
1579年(天正7年)	政宗、三春城主・田村清顕の娘「愛姫(めごひめ)」と結婚
1582年(天正10年)	「本能寺の変」にて織田信長没
1584年(天正12年)	政宗、18歳で伊達家第17代当主となる
1591年(天正19年)	政宗、岩出山(宮城県)に移る
1598年(慶長3年)	豊臣秀吉没
1599年(慶長4年)	伊達忠宗、政宗・愛姫の第二子として大坂で生誕
1600年(慶長5年)	「関ヶ原の戦い」がおこる
1601年(慶長6年)	仙台城築城開始
江戸時代	
1603年(慶長8年)	徳川家康が征夷大将軍になる 仙台城がほぼ完成し、政宗入城
1604年(慶長9年)	政宗、松島五大堂をつくる
1607年(慶長12年)	政宗、大崎八幡宮をつくる
1609年(慶長14年)	政宗、松島瑞巌寺をつくる
1613年(慶長18年)	支倉常長をスペイン・ローマに派遣する
1615年(慶長20年)	大阪夏の陣で豊臣氏が滅びる
1616年(元和2年)	徳川家康没
1620年(元和6年)	支倉常長、帰国する
1626年(寛永3年)	政宗、川村孫兵衛重吉に河川の改修を命令　北上川、江合川、迫川の合流工事をし、北上川が石巻に流れるようにする
1627年(寛永4年)	伊達光宗生誕
1628年(寛永5年)	政宗、若林城へ移る
1636年(寛永13年)	政宗没　忠宗が仙台藩第二代藩主となる
1645年(正保2年)	伊達光宗没
1647年(正保4年)	伊達光宗の菩提寺として「円通院」建立
1658年(万治元年)	伊達忠宗没

伊達政宗公の時代から続く伝統行事

「仙台七夕」

仙台七夕は、伊達政宗公の時代から400年以上も受け継がれている夏祭りです。歌人でもある政宗公は七夕に関する和歌を8首詠んでおり、この時すでに七夕の行事を取り入れていることがわかります。本来、旧暦7月7日の行事で、6日の夕方から笹竹を飾り姫星と彦星を祭って、手習・手芸の上達を願い、農家では藁などで七夕馬をつくり、豊作を祖霊に祈りました。現在も残る七夕の「七つ飾り」には商売繁盛、無病息災、健康長寿など人々の願いが込められています。

煌びやかな金箔で飾られた「襖絵」は圧巻

瑞巌寺 松島町

瑞巌寺の前身は9世紀初頭、慈覚大師円仁によって開創された天台宗「延福寺」と伝わる。その後、鎌倉幕府の北条時頼によって臨済宗「円福寺」が建立されました。伊達政宗は仙台城の築城と併せてこの寺の復興に注力し、自身の菩提寺としました。1608年に鋳造された大鐘には「山を号して松島と曰い、寺を名づけて瑞岩(巌)と曰う」とあり以後、正式名称を「松島青龍山瑞巌円福禅寺」としました。現在まで一度の火事も無く、桃山美術を現在に伝える貴重な建築物となっています。

◆詳しくは／P082　仙台・松島エリアへ

本堂「大悲亭」は光宗公の江戸の納涼の亭を移築

円通院 松島町

伊達政宗の嫡孫、伊達光宗が1645年、19歳の若さで死没。その死を悼んだ父・忠宗公により円通院が開創、お霊屋(三慧殿)は1647年に完成しました。東北では数少ない格式ある方三間霊屋の遺構であり、3世紀半もの間秘蔵とされた国の重要文化財です。その厨子には支倉常長が西洋から持ち帰ったと伝わるバラや水仙の花の絵が鮮やかに描かれており、バラはローマを象徴し、水仙はイタリアのフィレンツェを表す花とされ、支倉常長が訪ねた証と伝わっています。

◆詳しくは／P084　仙台・松島エリアへ

宮城県誕生
150周年記念企画
みやぎの時代絵巻
History of MIYAGI

［みやぎ偉人伝］

みやぎの歴史を拓いたクリエイターたち

時代の先を走り続け地域の文化構築に貢献

長い時間を掛けて築かれ、今につながる宮城の文化・芸術。その歴史の中には必ず時代を牽引する偉人の姿がありました。現在遺されている史跡や遺構からも、その功績をうかがい知ることができます。好奇心豊かで、先見の明があった時代のクリエイターたちに目を向けてみましょう。

伊達政宗の命を受け
国際舞台で外交交渉の偉業

支倉常長（はせくらつねなが）（1571～1622）※

支倉常長は出羽国置賜郡立石村（山形県米沢市）で、米沢伊達家藩士の山口常成の子として生まれました。7歳で父の兄・支倉時正の養子となり川崎町支倉地区の「上楯城」に移ります。後に伊達政宗の家臣となり、文禄・慶長の役では朝鮮に渡海、足軽・鉄砲組頭としても活躍しました。1613年（慶長18年）、仙台藩とノビスパニア（メキシコ）との貿易交渉のため、「慶長遣欧使節」としてサン・ファン・バウティスタ号に乗り、大西洋と太平洋を横断。政宗公の名代としてスペイン国王とローマ教皇に面会を果たしました。しかし幕府のキリスト教弾圧などから目的を達することができず、7年後に失意の帰国となりましたが、日本人で初めてヨーロッパへ赴き外交交渉をするという歴史的偉業を成し遂げたのです。

※出生を1570年頃、死亡を1621年とする説もあります。

支倉常長メモリアルパーク

圓長山円福寺

支倉常長の墓と言われる県内の伝承地

支倉常長メモリアルパーク 大郷町
圓長山円福寺 川崎町

支倉常長はローマ教皇に謁見後、1620年（元和6年）に帰国し、2年後に亡くなったとされています。しかしそれは当時キリスト教の禁教令を布いていた幕府への見せかけで、政宗公が洗礼を受けていた常長を守るためだったという説があります。常長の墓と言われるものは県内に4か所あり、現在は墓へと続く道を中心に公園整備された大郷町の支倉常長メモリアルパーク、生まれ故郷とも言える川崎町支倉宿の円福寺、常長の嫡男・常頼の菩提寺である仙台市北山の光明寺、大和町吉岡字西風（ならい）の五輪塔です。各所で言い継がれる伝承があり、その真相は謎のままとなっています。

◆支倉常長メモリアルパークの詳細は／P089　仙台・松島エリアへ

慶長遣欧使節の航跡を辿る

宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館） 石巻市

今から約400年前の江戸時代初期、仙台藩主伊達政宗の命によりヨーロッパに向かった「慶長遣欧使節」の偉業を伝える博物館です。施設はイタリア式庭園をモチーフとしたサン・ファン・バウティスタパークに囲まれており、高台からは牡鹿半島の自然と太平洋を一望できます。館内では使節を乗せて太平洋を渡ったガレオン船「サン・ファン・バウティスタ」号復元船内（※）の様子をVR（ヴァーチャルリアリティー）映像などで紹介しています。

◆詳しくは／P123　三陸エリアへ

※復元船の展示公開及び観覧は2021年をもって終了いたしました。（画像はVR上の復元船です）

※ミュージアムは今後、後継船の製作に着手しながら、2024年度に全面リニューアルオープンする予定です。

※最新情報は公式WEBサイトをご確認ください。

政宗公に最も信頼された名臣「白石城」の城主

片倉小十郎景綱（1557～1615）

初代片倉小十郎景綱は、伊達政宗の父・輝宗に見出され、政宗の傅役（もりやく）となり、忠臣として終生仕えました。政宗が豊臣秀吉から「小田原征伐」に参陣するように呼びかけられた時、重臣達は秀吉と徹底抗戦すべきと主張しましたが、伊達家のためにも秀吉に臣従した方がいいと進言したのが景綱でした。名参謀として伊達家を支え、政宗の信頼をゆるぎないものとしました。1602年（慶長7年）、白石城（一万三千石）を拝領。ひとつの藩内に、仙台城と白石城のふたつの城を構えるのはまれで、これは家康が景綱を認めていたからとも言われています。

歌枕の宝庫“みちのく”とのゆかり深き俳聖

松尾芭蕉（1644～1694）

松尾芭蕉は1644年に現在の三重県伊賀市で誕生。若くして伊賀上野藩の侍大将・藤堂良清の嗣子・良忠に仕え、良忠と共に俳諧の道に入りました。1672年（寛文12年）、初めての句集「貝おほひ」を執筆、その後江戸へと旅立ちます。深川に構えた「芭蕉庵」が1682年の江戸の大火で焼失。ひと所に留まらない心が生まれ、旅を繰り返し多くの名紀行文を遺したと言われています。その中でも宮城にゆかりがあるのが『おくのほそ道』。1689年（元禄2年）、弟子の河合曾良を伴って旧暦3月に深川を出発。5月はじめに「伊達の大木戸」を超え白石城下へ、半月ほどを掛けて県下の名所・旧跡や歌枕をめぐりました。その顕彰として県下でも多くの句碑が建てられ、往事の芭蕉の思いに寄り添うことができます。

仙台藩の南の要衝260余年間、片倉氏の居城に

白石城 白石市

白石城は、白石市の中心部（益岡公園）にあった平山城。1600年（慶長5年）伊達政宗が関ヶ原の戦いを契機に旧領を回復して伊達領となり、その後片倉小十郎景綱が城主に。幾度も大改修がなされ、明治維新まで260余年間片倉氏の居城となりました。明治7年に解体されましたが、景綱の偉業を偲び、平成7年に三階櫓（天守閣）と大手一ノ門・大手二ノ門が史実に忠実に復元されました。

◆詳しくは／P107　県南エリアへ

国の名勝「おくのほそ道の風景地」

武隈の松（たけくまのまつ） 岩沼市

「桜より 松は二木を 三月越し」

西行をはじめ多くの歌人に詠まれている名木。この句は弟子が「武隈の松＝二木の松を見られるように」と餞別にくれた句に応えたもので、桜の咲いている時期から三月経ってようやく二木の松を見ることができたと感激した芭蕉の気持ちを映しています。現在は「二木の松史跡公園」となっており、7代目とされる樹高17mほどの松がその姿を伝えています。

慶長12年に伊達政宗が再興した名刹

陸奥国分寺薬師堂 仙台市

「あやめ草　足に結ん　草鞋の緒」

芭蕉は榴岡天満宮を訪れた後、現在の仙台市若林区木ノ下にある「薬師堂」を参拝。古代の陸奥国分寺跡に伊達政宗が再興したもので草創期伽藍の範囲は国の史蹟に指定されています。この句は芭蕉を案内し、離仙の朝、草鞋（わらじ）二足など餞別を贈った仙台の俳人・北野加之への感謝の気持ちを詠じたもので、風流な心遣いに賛辞を贈っています。境内の准胝観音堂の傍らには芭蕉句碑が建立されています。

明治～大正時代

1868 ⟶ 1926

伊達政宗と歴代藩主が築いてきた「仙台藩」は明治維新の声を聞き終焉を迎え、「仙台県」を経て「宮城県」へと改称。同時にそれは急速な産業の近代化を意味するものでもありました。行政区分が変わり、移動手段も船や馬車から鉄道へ。技術革新が進み、建築の分野でも大いに西洋文化の影響を受けました。近代国家の黎明期をうかがい知る宮城の希少な遺構を訪ねてみましょう。

仙台藩から宮城県へ
明治の近代化による発展

MIYAGI 150th ANNIVERSARY

明治時代	
1868年(明治元年)	明治維新　戊辰戦争起こる
1869年(明治2年)	仙台藩版籍奉還 仙台藩主は藩知事となる
1871年(明治4年)	廃藩置県 仙台藩を廃して仙台県をおく
1872年(明治5年)	仙台県から「宮城県」に改称 登米市・水沢県庁本庁舎落成
1876年(明治9年)	統合宮城県成立(現在の県域になる)
1879年(明治12年)	第1回宮城県議会(議員44名)開会
1881年(明治14年)	宮城県書籍館開設
1884年(明治17年)	野蒜築港工事、台風で港湾施設建設を断念
1887年(明治20年)	東北本線上野～塩竈間開通
1888年(明治21年)	登米市・旧登米高等尋常小学校落成
1889年(明治22年)	登米市・旧登米警察署庁舎落成
1894年(明治27年)	日清戦争おこる
大正時代	
1912年(大正元年)	旧県立図書館新築
1913年(大正2年)	陸羽東線小牛田～岩出山間開通
1914年(大正3年)	第一次世界大戦おこる
1918年(大正7年)	仙台に米騒動おこる
1921年(大正10年)	栗原電鉄石越～沢辺間開通　石巻線開通
1923年(大正12年)	関東大震災

明治のハイカラな雰囲気が建物や町並みに生きる

みやぎの明治村 登米市

宮城県北東部にある登米市登米(とよま)町は、登米伊達家が治める二万一千石の城下町として栄え、明治維新後は北上川を利用した舟運による米穀の集散地として繁栄しました。現在の宮城県となるまで「登米県(とめけん)」「水沢県」と県域が変わり、登米町は一時期登米県の県庁所在地になりました。明治時代に建造された高等尋常小学校、県庁、警察署などの洋風建築物、蔵造りの商家や武家屋敷など、当時を思わせる建物も数多く現存しており、その町並みから「みやぎの明治村」と呼ばれています。

◆詳しくは／P150　県北エリアへ

旧登米高等尋常小学校(教育資料館)

明治21年に落成した旧登米高等尋常小学校。昭和48年まで実際に使われており、現在では「教育資料館」として保存公開されています。木造二階建ての素木造り、中庭を囲んだコの字型で、西洋風の白いバルコニーが印象的。明治の学校建築の特色がわかる重要文化財です。

◆詳しくは／P150　県北エリアへ

旧登米警察署庁舎(警察資料館)

金成警察署登米分署から登米警察署に昇格したのに伴い、明治22年に落成。設計監督は旧登米高等尋常小学校を手掛けた山添喜三郎氏によるものです。明治の事務所建築としては極めて珍しいもので、玄関屋根下の白壁には金色の警察紋章が輝いており、当時の威容と風格が感じられます。

◆詳しくは／P150　県北エリアへ

旧水沢県庁舎(水沢県庁記念館)

当初は現在の宮城県北部と岩手県南部を管轄する「登米県」の庁舎として着工されたものの、明治9年に現在の県域が成立するまでめまぐるしく県域が変更されました。水沢県庁舎として使用されたのは明治5年～8年のみで、翌年には学校として、さらに明治22年頃からは裁判所として使用されました。和洋折衷の趣がユニークな官公衙建築です。

◆詳しくは／P150　県北エリアへ

重厚な明治期の蔵と大正ロマンあふれる収蔵品

蔵の郷土館 齋理屋敷 丸森町

江戸時代後期から昭和初期にかけて、呉服・太物の商売、味噌・醤油の醸造、縫製業など幅広い事業を展開し、七代に渡り栄えた豪商、齋藤理助（歴代の当主が襲名）。通称「齋理」は製糸工場や電燈会社、阿武隈川に橋を渡す「隈共社」の設立など、丸森の経済発展に尽力しました。1986年に屋敷や収蔵品全てを丸森町へ寄贈、「蔵の郷土館」として開放したのが、今の齋理屋敷です。「齋理」が最も栄えた大正時代の建造物、収蔵品が数多く遺されています。

◆詳しくは／P114　県南エリアへ

富谷宿観光交流ステーション

とみやど 富谷市

元鶴巣城主・黒川氏の家老だった内ヶ崎織部氏は伊達政宗公より「富谷に宿場の開設」を命ぜられ、1620年（元和6年）≪富谷宿≫を開設。開宿400年を記念し、かつて宿場町として栄えていた富谷市「しんまち地区」の内ヶ崎醤油屋跡に富谷宿観光交流ステーション『とみやど』がオープン。織部の末裔である内ヶ崎作三郎氏の記念館もあり、大正から昭和に掛けて政治家として近代化に貢献した郷土の偉人を知ることができます。宿場町の歴史と地元発の新しいチャレンジが交わる観光スポットです。

◆詳しくは／P068　仙台・松島エリアへ

明治から大正時代の
趣ある商家建築

村田商人やましょう記念館（旧大沼家住宅） 村田町

国の重要伝統的建造物群保存地区である宮城県村田町。蔵造り商家の町並みの中で公開されているのが「村田商人やましょう記念館」です。江戸後期から昭和初期にかけて紅花商、生糸、綿糸、味噌醤油醸造・販売業などで財を成した大沼家の店舗兼住宅で、明治7年建築の重厚な店構えと大正5年建築の本宅は豪商の風致を今に伝えます。また表門は歴史的価値の高い「薬医門」でありシンボルともなっています。

◆詳しくは／P111　県南エリアへ

日本初の洋式近代港湾で明治三大築港のひとつ

野蒜築港 東松島市

東松島市にある明治時代の築港跡。明治政府が近代港湾として最初に着手した国家的プロジェクトがこの野蒜築港です。大久保利通に命じられたオランダ人技師コルネリス・ファン・ドールンが、鳴瀬川の河口に国際貿易港を築き岩手・福島と結ぶ水運ネットワークを構想。明治11年に着工、4年後に内港地区が完成し、外港部分の工事に取り掛かりましたが、明治17年に台風が直撃、被災し事業は断念され「幻の港」と言われました。

みやぎの名産品
「笹かまぼこ」

宮城のお土産の代名詞でもある「笹かまぼこ」。そのルーツは諸説ありますが、明治の初め、ひらめの大漁が続き、保存のためにすり身にして手のひらで叩き、笹の葉の形に焼いたのがはじまりと言われています。生魚よりも保存がきき、こんがり焼いた美味しさが評判となり、広く食べられるようになったとか。各店によって違う風味や弾力は、ぜひ食べ比べてみる価値あり!

昭和～平成～令和時代

1926 ⟶ 2022

「県民の足」の進化とグローバル化

宮城にもかつて仙北鉄道、仙台鉄道、宮城電鉄、秋保電鉄などの私鉄や軌道が地域産業とともに機能していました。しかし戦後の高度経済成長期、モータリゼーションの到来は、交通環境を大きく転換させるものでした。街中の道路を走る市電は廃止され、東北新幹線が開通。空の便の国際化も進みました。100年に渡る≪乗り物≫の変化は県民の暮らしや文化に深く関わって来たのです。

時代とともに変化し続ける
東北の「玄関口」

JR仙台駅 仙台市

仙台駅は1887年（明治20年）に開業。初代の駅舎は木造平屋建てで上野まで12時間も掛かっていました。以来130年もの間、東北の交通の拠点として、時代とともに進化し続けています。中でも1982年の「東北新幹線」開通（大宮～盛岡駅間）、3年後の上野駅乗り入れ、平成になってからの東北・上越新幹線『東京駅』乗り入れは、移動時間を格段に短縮させ、ビジネスや観光、東北の経済活動に多大なる影響を与えました。また高度経済成長期の「交通戦争」を受けて、歩車分離を図るために駅直結でペデストリアンデッキを設置。40年に渡って人々の往来を見つめています。

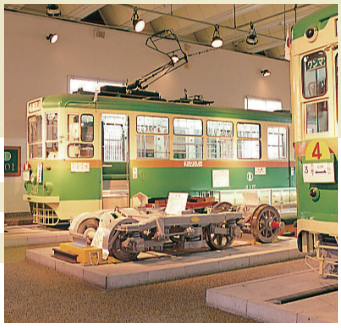
◆詳しくは／P054　仙台・松島エリアへ

半世紀に渡り市民の足となった仙台市電

仙台市電保存館 仙台市

仙台市電は1926年（大正15年）に営業開始、1928年（昭和3年）には仙台市内中心部の循環線と芭蕉の辻線が完成、長町、八幡町、北仙台、原町の各線が延長され、総営業キロは16kmにも及びました。昭和30年代の最盛期には89両の車両で1日平均約10万人が利用しました。しかし自家用車の急増で道路は混雑し、市電の利用者は年々減少。1976年にその幕を閉じることとなりました。半世紀に渡って市民の足として親しまれたその姿を未来に伝えるため、地下鉄富沢車両基地内に保存館が開館。創業当時の車両や関係資料の展示、ビデオ上映などで仙台市電の魅力を振り返ることができます。

◆詳しくは／P064　仙台・松島エリアへ



地域に愛された「くりでん」に会える
レトロな鉄道公園

くりでんミュージアム 栗原市

「くりでん」のルーツは古く、大正時代の「栗原軌道」、鉛や亜鉛などを産出した細倉鉱山の盛衰とともにあった「栗原電鉄」、そして第三セクター鉄道へと移行し、1995年に「くりはら田園鉄道」となりました。時代の波から輸送人員の減少に伴い、惜しまれながら2007年に廃線となりました。旧若柳駅は鉄道公園として整備され、2017年には「くりでんミュージアム」がオープン。機関車庫・修繕庫には当時の車両の展示もあり、子供にも人気の体験施設となっています。

◆詳しくは／P148　県北エリアへ

昭和時代	
1928年（昭和3年）	宮城電鉄（現在の仙石線）仙台～石巻間全通
1931年（昭和6年）	旧県庁舎完成　満州事変おこる
1937年（昭和12年）	仙山線仙台～山形間開通
1941年（昭和16年）	日本銀行仙台支店開設
1945年（昭和20年）	仙台大空襲、第二次世界大戦終結
1962年（昭和37年）	蔵王エコーライン開通
1968年（昭和43年）	国鉄気仙沼線と丸森線が一部開通
1971年（昭和46年）	コバルトライン開通　仙台港開港
1972年（昭和47年）	仙台空港に新滑走路完成、ジェット旅客機が就航 県制百年記念式典　沖縄本土復帰
1976年（昭和51年）	仙台市電廃止
1977年（昭和52年）	国鉄気仙沼線が全線開通 新仙台駅開業
1978年（昭和53年）	『宮城県沖地震』発生 東北自動車道・一関インターまで延長
1982年（昭和57年）	東北新幹線（大宮～盛岡間）開業
1985年（昭和60年）	東北新幹線「上野駅」乗入 伊豆沼・内沼ラムサール条約指定
1987年（昭和62年）	未来の東北博覧会開催
1988年（昭和63年）	阿武隈急行線全線開業
平成時代	
1989年（平成元年）	仙台市、政令指定都市となる
1990年（平成2年）	仙台～ソウル、グアム・サイパン定期便就航
1994年（平成6年）	仙台～大連・北京、ホノルル定期便就航
1995年（平成7年）	国際コンテナ東南アジア定期航路開設 阪神淡路大震災
1996年（平成8年）	仙台空港新ターミナル国際線部分オープン
2001年（平成13年）	仙台塩釜港が特定重要港湾に昇格 仙台東部道路・仙台南部道路全線開通
2003年（平成15年）	『三陸南地震』『宮城県北部連続地震』発生
2004年（平成16年）	プロ野球新球団が宮城・仙台に設立決定
2007年（平成19年）	仙台空港アクセス鉄道開業
2008年（平成20年）	宮城県とセントラル自動車（株）との立地協定調印
2009年（平成21年）	仙台塩釜港に大型コンテナ船寄港開始
2011年（平成23年）	『東日本大震災』発生
2015年（平成27年）	「仙台市地下鉄東西線」開業
2016年（平成28年）	JR仙石線「石巻あゆみ野駅」開業 「南三陸町地方卸売市場」再建 東日本大震災で一部が流出し架け替えした「国道398号新北上大橋」開通
2017年（平成29年）	三陸沿岸道路「南三陸道路（志津川IC～南三陸海岸IC）」開通
2018年（平成30年）	志津川湾のラムサール条約湿地登録
令和時代	
2019年（令和元年）	「気仙沼大島大橋」開通 名取市閖上地区まちびらき
2020年（令和2年）	常磐線・富岡駅～浪江駅間の運転再開によって、東日本大震災で被害を受けたJR線、全路線で運転再開
2021年（令和3年）	東京オリンピック・パラリンピック、宮城スタジアムにてサッカー競技開催
2022年（令和4年）	宮城県誕生150周年

東日本大震災を乗り越えて

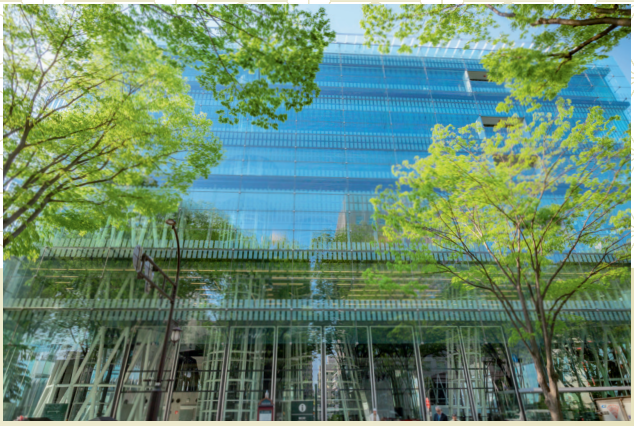
2011年、東日本大震災は県下の交通網を広範囲に襲い、人流・物流ともに機能しない期間がありました。港湾・漁港を津波が直撃し、沿岸部ではレールが津波で流されるなど鉄道がストップし甚大な被害に。また東北の玄関口である仙台空港も津波の被害を受け、ターミナルが使えない事態となりました。先が見えない状況の中、関係者はもちろん地域の方々の不断の努力で徐々に復興。震災後10年の時を経て、多くの施設が甦り、新しい取組も次々と生まれています。

東北の国際空港として
航空ネットワークの拠点に

仙台空港 名取市・岩沼市

1956年、GHQ（連合軍総司令部）より返還された「矢ノ目飛行場」は、翌年に「仙台飛行場」として開港しました。その後も航空会社が空路を拡大し、1964年に「仙台空港」と改称しました。就航第1便となった「白鷺号」（全日空）は、大勢の見物客に歓迎されました。1964年に「仙台空港」と改称。世界では急速にジェット化が進み、仙台空港でも滑走路やターミナルビルを新設、定期路線が全国に拡大しました。その後国際化の取組をはじめ1990年にソウル便・グアム便が就航、東北初の国際空港に。2007年「仙台空港アクセス鉄道」が開業し、より利便性の高い空港になりました。東日本大震災の被災も乗り越え、2016年には『空港の民営化』がスタート。路線拡充や空港アクセスの活性化も進んでいます。

◆詳しくは／P091　仙台・松島エリアへ



図書館を中心とした市民の文化公共施設

せんだいメディアテーク 仙台市

震災で7階のつり天井が落下、3階の窓ガラスが破損したり、図書館の再開が困難な事態に。緊急工事を行う一方、復興への長い道のりを市民とともに向き合うために「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を開設。全館再開後も映像・写真・音声などを「震災の記録・市民協働アーカイブ」として公開しています。

◆詳しくは／P055　仙台・松島エリアへ

飲食店やお土産屋がにぎやかに軒を連ねる

南三陸さんさん商店街 南三陸町

世界的建築家「隈研吾」氏のグランドデザインで2017年リニューアル。高台から一望できる志津川湾を活かすように建物を配し、“美人杉”といわれる南三陸杉がふんだんに使われた店舗に『南三陸キラキラ丼』や地元の名産品が並びます。

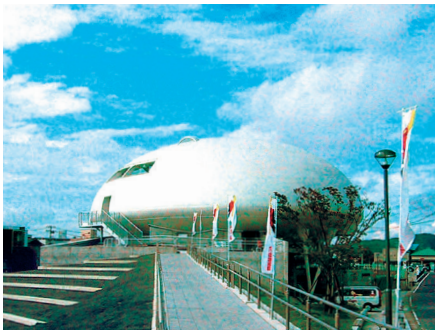
◆詳しくは／P132　三陸エリアへ

石ノ森章太郎の世界が広がるミュージアム

石ノ森萬画館 石巻市

津波は1階の6.5mまで浸水。奇跡的に上階部分が流されず、自衛隊が到着するまで近隣住民の避難場所となりました。玄関を塞いでいたベニヤ板には全国から励ましのメッセージが寄せられ復興のシンボルに。2013年リニューアルオープンを果たしました。

◆詳しくは／P122　三陸エリアへ



震災の「目に見える証」として次代へ

東日本大震災遺構・伝承館 気仙沼市

震災当日まで「気仙沼向洋高校」の校舎だった建物を遺構とし、被災直後の姿が保存されています。併設している伝承館では、映像や写真パネルなどで震災の記憶と教訓を未来へと伝えています。

◆詳しくは／P131　三陸エリアへ